



「見たり、聞いたり、探ったり」No.271

通算 No.422

青木行雄

「ミハイル・ゴルバチョフ」  
ソ連元大統領の死去、91歳  
(ソ連最後の指導者) (2022年8月30日没)

旧ソ連最後の最高指導者で初代ソ連大統領となったミハイル・ゴルバチョフ氏が2022年8月30日、モスクワの病院で死去した。91歳だった。

東西冷戦を終結させ、ベルリンの壁を1989年(平成元)に崩壊に導き、その後の東西ドイツ統合を実現した最大の立役者であった。1990年(平成2)にノーベル平和賞を受賞した。

1991年(平成3)4月にソビエト連邦最高指導者として初めて日本を訪問、海部俊樹首相(当時)と日ソ平和条約の締結交渉や北方領土帰属等の問題を討論したが、合意には達しなかった。

ゴルバチョフとはどんな人物だったのだろうか。

正式の名前は、ミハイル・セルゲーエヴィイチ・ゴルバチョフと言い、ソビエト連邦及びロシアの政治家であった。ソビエト連邦の最後の最高指導者であり、1985年(昭和60)から1991年(平成3)までソビエト連邦共産党書記長を務めた、1988年(昭和63)から1991年(平成3)まで同国の国家元首でもあり、1988年(昭和63)から1989年(平成元)までソビエト連邦最高会議幹部会議長、1989年(平成元)から1990年(平成2)までソビエト連邦最高会議議長、1990(平成2)年から1991(平成3)年までソビエト連邦大統領を務めた。ゴルバチョフは、思想的には当初マルクス・レーニン主義を信奉していたが、1990年(平成2)年代初頭には社会民主主義に移行していたといわれる。

ゴルバチョフは、スタヴロポリ地方のプリヴォルノエで、両親は集団農場の労働者であり、貧しい家庭で育った。スターリンの支配下で育ち、集団農場でコンバイン(農機具)を運転した後、共産党に入党し、マルクス・レーニン主義の解釈で一党独裁のソビエト連邦を統治した。モスクワ大学在学中の1953年(昭和28)に同級生のライサ・ティタレンコと結婚し、1955年(昭和30)に法学博士号を取得したという。スターリンの死後、ニキータ・フルシチョフによる脱スターリン改革の熱心な推進者となる。

1970年(昭和45)、スタヴロポリ地方委員会の第一書記



1985年(昭和60)ソ連共産党書記長に就任  
54歳の容姿

に就任し、スタプロポリ大運河の建設を指揮した。1978年(昭和53)、モスクワに戻り、党中央委員会書記となり、1979年(昭和54)、党政治局委員となる。ブレジネフの死後、ユーリ・アンドロポフとコンスタンチン・チェルネンコを経て、1985年(昭和60)、事実上の政府首脳である書記長に選出されたのである。

ゴルバチョフは、ソ連邦の維持と社会主義の理想にこだわりながらも、1986年(昭和61)のチェルノブイリ原発事故以降、大幅な改革が必要だと考えていた。ソ連・アフガン戦争から撤退し、ロナルド・レーガン大統領との首脳会談で核兵器の制限と冷戦の終結に乗り出した。国内では、言論・報道の自由を認めるグラスノスチ(開放)政策、経済の意思決定を分散して効率化を図るペレストロイカ(再構築)政策がとられた。また、民主化政策や国民の直接選挙で選ばれる人民代議員会議の設立は、一党独裁の国家を弱体化させた。1989年(平成元)から1990年(平成2)にかけて、東欧諸国がマルクス・レーニン主義の統治を放棄した際、ゴルバチョフは軍事的な介入を断念した。1990年(平成2)には統一教会開祖の「文鮮明」と対談した。国家元首であったゴルバチョフと会談、国内では、民族主義的な感情が高まり、ソ連邦の崩壊の危機を招き、マルクス・レーニン主義の強硬派は1991年(平成3)にゴルバチョフに対する8月クーデターを起こし、失敗した。その結果、ゴルバチョフの意に反してソ連は解体され、ゴルバチョフは辞任した。退任後は、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)の資金援助によりゴルバチョフ財団(ゴルバチョフ友好平和財団)を設立し活動することになる。

ゴルバチョフは西側諸国では人気は高いが、ロシアを始めとした旧ソビエト諸国では、ソ連の解体を加速させ経済崩壊を招いたとして、その評価は低い。また、ウクライナでは2014年(平成26)のロシアによるクリミア併合を支持するなどプーチン政権を代弁する発言を曲げず、5年間の入国禁止措置を受けた。リトアニアでも1991年(平成3)の独立運動に軍を出動させて弾圧したとして批判された。

一般的な評価について、各紙より拾って見た。

2017年(平成29)に実施したある紙による調査によると、ロシア国民の46%がゴルバチョフに対して否定的な意見を持ち、30%が無関心、肯定的な意見はわずか15%であった言うが、欧米諸国では、彼を20世紀後半最大の政治家だったと評した。1980年(昭和55)代前半から、1990年(平成2)代前半にかけての西側諸国では、ゴルバチョフの訪問を歓迎する大群衆に代表されるように「ゴルビーマニア」が存在したと米国の新聞は伝えたと書かれており、1980年(昭和55)代には「タイム」が彼を「10年に一人の男」と名



1987年(昭和62)レーガン元米大統領との調印式



1991年(平成3)、党書記長辞任頃の写真か、プーチンとの写真は珍しい

付けたという。ソ連国内でも、1985年(昭和60)から1989年(昭和64)末にかけて、ゴルバチョフが最も人気のある政治家であるとの世論調査が行われたようである。ゴルバチョフはソ連を近代化し、民主的な社会主義を構築しようとする改革者であると、国内の支持者からは見られていた。「タウプマン」はゴルバチョフを「祖国と世界を変えた先見者、ただし、彼が望んだほどには変えられなかったが」と評している。「タウプマン」はゴルバチョフを「ロシアの支配者として、また世界の政治家として例外的な存在」として評価した。

ゴルバチョフの米国との交渉は、冷戦に終止符を打ち、核紛争の脅威を減らすことに貢献した。東欧共産圏の分裂を容認した彼の決断は、中東欧での大きな流血を防いだ。これは「ソビエト帝国」が数十年前の大英帝国よりもはるかに平和的に終焉したことを意味していると。同じように、ゴルバチョフ政権下のソ連は同時期のユーゴスラビア崩壊のような内戦に陥ることなく、崩壊した。ゴルバチョフは、東西ドイツの合併を推進したことで、「ドイツ統一の共同責任者」となり、ドイツ国民の間で長期にわたる人気を得たと「マコーリ」は指摘すると書かれている。

しかし、ゴルバチョフは、国内の批判にさらされていた。ゴルバチョフを尊敬する人もいれば、憎む人もいる。ソ連経済の衰退を止めることができず、社会全体に不満が広がった。リベラル派は、彼がマルクス・レーニン主義から脱却し、自由市場の自由民主主義を確立するための急進性を欠いていると考えていた。逆に、共産党の批判者の多くは、彼の改革は無謀であり、ソビエト社会主義の存続を脅かすと考えた。中国の共産党に倣って、政府改革ではなく、経済改革に限定すべきだったと考える者もいたという。また、武力ではなく説得を重視する姿勢を、弱さの表れと見るロシア人も少なくなかったようである。

共産党の幹部にとっては、ソ連邦の崩壊は自分たちの権力を失うという悲惨なものだった。ロシアでは、ゴルバチョフはソビエト連邦の崩壊とそれに伴う1990年(平成2)代の経済崩壊に果たした役割から、広く軽蔑されている。例えば、1991年(平成3)のゴルバチョフに対するクーデター未遂を指揮した一人、ヴァレンニコフ将軍は、彼を「反逆者、自国民への裏切り者」と呼んだ。また、東欧のマルクス・レーニン主義政権の崩壊を許したこと、統一ドイツのNATO加盟を許したことなど、ロシア国益に反するとして彼を批判する声も多かったと書かれている。

#### ゴルバチョフの日本との関係について

書記長・ソ連大統領時代の1991年(平成3)4月16日から19日までの4日間、日ソ会談のため来日した。当時の海部俊樹首相や元外務大臣の安倍晋太郎と会談を行っている。この時同伴したライサ夫人の銀座での買い物のシーンがテレビを通じて報道され、ソ連国内で「国民が経済不調で苦しんでいるのに」と不評を買ったようである。又初来日の際、鯉のぼりを見て大変に驚いたというから、ソ連には子供の成長を祝う表現するのは外になにかあるのだろうか、また来日中の17日、ゴルバチョフ夫妻は広島市の平和記念公園を訪れ、献花した、そして長崎を訪れたときには「チェルノブイリでは多くの子供達が放射能



で苦しんでる。最初にその苦勞を背負ったのは、日本の皆さんで、私は敬意を払っている。だからここに来た」とコメントしたという。

ゴルバチョフの家族については、モスクワ大学在学中の1953年(昭和28)9月に同級生のライサ・ティタレンコさんと結婚した。そして1957年(昭和32)1月に娘のイリーナちゃんが(1人娘)が誕生している。

日本が大変気に入られたように思う、政界引退後、各種団体やマスコミなどの招きで頻繁に来日し、そのつどテレビ番組などに出演しているほか、地方都市にも足を伸ばし、講演会なども催している。1993年(平成5)4月には創価大学、大阪工業大学の両校で講演を行い、同年の創価大学と2003年(平成15)11月には日本大学より、それぞれ名誉博士号を授与され、同年および2005年(平成17)5月の2度にわたり日本大学にて講演を行っている。2005年(平成17)6月に来日した折には、徹子の部屋に出演。また、同年12月にも再び来日し、12月24日放送の日本テレビ系のバラエティー番組「世界一受けたい授業」に講師として出演、同番組内の講義の中で「日本には毎年何回も来ており、正確な来日回数はおぼえていない」と述べている。これほど来日は多かったようだ。



ゴルバチョフ、70歳頃の写真か、頭の傷後が目立つ

#### 「旧統一教会」について

ゴルバチョフは米国のロナルド・レーガン大統領と同じく旧統一教会を支持し、ゴルバチョフが設立したゴルバチョフ財団は、長きにわたり、統一教会の資金で運営されてきたという。しかし、ゴルバチョフは西側では人気があるが、ロシアでの人気はいまいちで、ゴルバチョフ財団は統一教会が望むような影響力を持てなかったといわれる。

2016年(平成28)、ウラジーミル・プーチン及びプーチン政権は、新興宗教勢力に対する布教活動や私的な参拝を禁ずるとし、ロシア国内における統一教会の活動は事実上不可能となったようであった。

#### ミハイル・ゴルバチョフ氏の歩み

- 1931年(昭和6) 3月 ソ連ロシア共和国南部のスタボロポリ地方で生まれる
- 1953年(昭和28) 9月 ライーサ・チタレンコさんと結婚
- 1955年(昭和30) モスクワ大法学部卒業
- 1957年(昭和32) 1月 娘のイリーナさん誕生
- 1985年(昭和60) 3月 ソ連共産党書記長に就任  
54歳で最高指導者  
ペレストロイカ提唱(情報公開)

- 1986年（昭和61） 4月 チェルノブイリ原発事故
- 1987年（昭和62） 12月 レーガン米大統領（当時）と中距離核戦力（INF）廃棄条約に調印《2019年（平成31）失効》
- 1989年（昭和64） 2月 アフガニスタンからソ連軍完全撤退
- ♪ （平成元） 5月 中ソ関係正常化を宣言
  - ♪ ♪ 11月 ベルリンの壁崩壊
  - ♪ ♪ 12月 米ソ首脳が冷戦終結を宣言《ブッシュ米大統領（当時）》
- 1990年（平成2） 3月 ソ連の初代大統領に就任
- ♪ ♪ 10月 東西ドイツの統一
  - ♪ ♪ 10月 ノーベル平和賞受賞
- 1991年（平成3） 1月 リトアニアに武力介入
- ♪ ♪ 4月 訪日し、北方領土問題などに関する共同声明
  - ♪ ♪ 7月 米ソが第1次戦略兵器削減条約調印
  - ♪ ♪ 8月 保守派のクーデター未遂で一時軟禁。党書記長辞任
  - ♪ ♪ 12月 ソ連崩壊で大統領辞任 60歳
- 2006年（平成18） 11月 ドイツで頸動脈<sup>けい</sup>の手術
- 2022年（令和4） 8月 ゴルバチョフ死去（91歳）

ゴルバチョフ氏が生れ育ったロシア南部スタブロポリは静かな農村で、豊かな穀倉地帯の風景は地理的に近いウクライナに続いている。ゴルバチョフ氏は妻のライサさんと母のマリヤさんがウクライナ人で「自分も半分ウクライナ人だ」と言っていた。

重い病にかかったゴルバチョフ氏は病院で療養を続けながら、ウクライナに思いをはせながら、早期の和平実現を願っていたはずだ。1991年（平成3）12月のソ連崩壊後も30年にわたり、平和を祈るメッセージを世界に発信し続けていたという。

2022年（令和4）2月24日、ロシアのプーチン大統領が踏み切ったウクライナへの軍事侵攻時にはすでに重い病に侵されていたゴルバチョフ氏にどれだけの衝撃を与えたことだろう。

冷戦終結や軍縮合意など大きな実績をのこし、ノーベル平和賞まで受賞したゴルバチョフ氏だがウクライナ侵攻でいまはロシアの孤立化が進んでおり告別式には欧米諸国をはじめとする要人はほとんど姿を見せず、プーチン大統領も葬儀には出席していない。最悪の寂しい葬儀だったようである。日本大好きなゴルバチョフに陰ながら御冥福を祈りたい。

2022年9月25日 記